知事強気、戸惑う現場

大阪府議会起立条例成立　義務化で混乱懸念

義務化の是非が大きな議論を呼んだ君が代起立条例が3日、大阪府議会で成立した。「従来の指導で対応できるのに…」と校長からも疑問の声が上がるが、規律強化を主張する橋下徹知事は「公立の教員は自由業じゃない」と意に介さない。政治の介入を恐れる学校現場との摩れ違いはさらに鮮明になった。【本記2面】

「条例で義務化すると、かえって学校が混乱するのではないか」。府立高校の男性校長は心配する。

入学式などで起立しない教員の数は、職員会議などでの指導で年々減少。「話し合いでできていたのに、強制的に従わせることになれば教員との信頼関係が崩れてしまう」と苦しい立場を語った。

地域によっては在日韓国・朝鮮人の児童、生徒が多い学校もある。

小学校の女性教諭(58)は「君が代の斉唱や起立を拒む子どもにも歌わせよう、という意識が教員に広がるのが怖い」と話す。

国旗国歌法の成立時に「強制しない」とした政府答弁との矛盾を指摘する声もある。中学校の男性教諭(54)は「国の法律でやらないとしたものを、どうして自治体の条例で無理強いできるのか」と首をかしげる。

一方で「荒療治も必要」と条例に賛成する意見も。別の府立高校の校長は「起立しない教員は絶対に起立しない。職務を遂行させる責任がある校長の立場では、このままではいけないという気持ちもあった」と打ち明ける。

3日朝、取材に応じた橋下知事は「教員も組織の一員。上からの命令に従うのは当たり前。学校現場に恐ろしい教員がどんどん生み出されている。歯止めをかけないといけない」と言い切った。

避難町民逮捕で義援金辞退

福島・双葉町長表明　対応に疑問の声も

埼玉県加須市の旧県立騎西高校に集団避難している福島県双葉町民の1人が、児童買春・ポルノ禁止法違反(製造)容疑で警視庁に逮捕されたことを受け、井戸川克隆町長が双葉町宛てに直接寄せられる義援金を辞退すると、町民に説明していたことが3日、町関係者の話で分かった。

関係者によると、町長は1日、旧高校で開かれた町民との対話集会で事件に触れ「逮捕者が出た。義援金を今後、辞退する」と表明。出席者から「町職員や町議であれば理解できるが、逮捕は1人の町民。いかがなものか」「義援金は送る方の選択」との声が上がったが、町長は態度を変えなかったという。

町に直接寄せられる義援金とは別に、国や県からの1世帯40万円の義援金の配分手続きはほぼ終了している。

警視庁は5月25日、知人の女子高生に裸の写真を送らせたとして、同法違反容疑で霊媒師見習い佐藤昌弘容疑者(57)を逮捕した。

前社長「大間違いした」

報告書漏えいで謝罪

尼崎JR脱線事故で業務上過失致死傷罪に問われた前JR西日本社長山崎正夫被告(68)の公判が3日、神戸地裁(岡田信裁判長)で開かれ、前社長は2009年に発覚した事故調査報告書の漏えい問題について「本当に申し訳ない大間違いをした」と謝罪した。

弁護側の被告人質問はこの日で終了。次回以降は検察官と裁判官のほか、被害者参加を認められた遺族らが質問する。漏えい問題では、前社長が07年、国土交通省航空・鉄道事故調査委員会(現運輸安全委員会)の委員だった山口浩一氏(73)から脱線事故の調査報告書案を入手、文面の修正を働き掛けていた。

山崎前社長は「被害者などへの説明責任もあるので少しでも情報が欲しかった」と釈明。刑事責任を免れる目的はなかったとした。

自動列車停止装置(ATS)など事故防止のための設備については「必要なら、何としてもお金をかけてやっていた」と主張。事故前の安全対策への認識を聞かれ「(社員教育などの)ソフト対策と(設備などの)ハード対策は車の両輪だ」と答えた。

また、検察審査会の議決に基づき強制起訴されたJR西の井手正敬元相談役(76)について「功績は大きいが、弊害もあった。意見を否定されたり、厳しく叱責されたりした」と話した。

ユニクロが文春を提訴

雑誌記事、本めぐり

「ユニクロ」を展開するファーストリテイリング(山口市)など2社が3日、週刊文春の記事や単行本で名誉を傷つけられたとして、発行元の文芸春秋(東京)に、単行本の発行差し止めと回収のほか、計2億2千万円の損害賠償と内容を取り消す広告の掲載を求めて東京地裁に提訴した。

差し止めなどの対象は、フリージャーナリスト横田増生氏が執筆し、3月に発行された「ユニクロ帝国の光と影」。週刊文春2010年5月6、13日号に「ユニクロ中国『秘密工場』に潜入した！」との見出しで掲載された横田氏の記事と併せて賠償なども求めた。

ユニクロ側は「店舗や中国の生産工場で、従業員に低い賃金での長時間労働を迫っているかのように報じている」と主張、「極めて乏しい取材しかしておらず、実態とはかけ離れている。営業上、決定的なダメージを与えている。

年寄名跡改善に消極的

相撲協会の改革工程表

公益財団法人認定を目指す日本相撲協会が文部科学省に提出した組織改革の工程表の詳細が3日、明らかになった。高額での売買が問題視されている年寄名跡については、協会が買い取る方法や退職時に返上させて退職金を割り増しする案を記す一方で、協会の財政負担を懸念するなど改善に消極的な面も示した。

工程表は「ガバナンスの整備に関する独立委員会」からの答申に基づくもので、最優先で改善に着手する案件を「A」、さらに検討が必要なものを「B」と区分。年寄名跡問題はBとし、方針決定時期を今年10月に定めている。

師匠(部屋持ち親方)と理事の兼任についてはB。一定期限内に十両に昇進しない力士をやめさせる案も「遅咲きの人材もいる」としてBだった。各相撲部屋を協会組織の一部として明確に規定する案については、部屋は師匠の個人事業で権利を侵害する可能性があるとして、相撲部屋を減らす案とともにBとした。

津波の語り部になって

祖父の教えが命守った

紙芝居で伝承の田畑さん(宮古・田老)

「みんなが津波の語り部になってほしい」。自作の紙芝居で約30年にわたり津波の恐ろしさを伝えている宮古市田老の田畑ヨシさん(86)が、口承の大切さを呼び掛けている。自身は祖父から1896(明治29)年の明治三陸大津波の体験談を聞いて育ち、2度の津波を生き延びた。災害の記憶を風化させまいと、美しい三陸の海に願う。

「命はてんでんこ。一人でも山に逃げろ。津波は逃げるが勝ちだ」。厳格な田畑さんの祖父は、口癖のように言い続けた。

その教えで、田畑さんは8歳だった1933(昭和8)年の昭和三陸大津波から難を逃れた。以来、リュックサックに貴重品を入れ、常に避難準備を整えるようになった。

避難の大切さ訴える

そして今回の大津波。地震に「必ず津波が来る」と直感。急いで高台に住む妹宅へ避難した。

2階から海を見ると「水平線を雲か波か分からないほどの巨大な津波が押し寄せてきた」。たくさんの思い出が詰まった自宅は跡形もなくなった。

「2度も津波に遭うなんて。私の人生は津波人生」

この人生経験の伝承に役立ててきた紙芝居は、宮古市の教育関係者に貸していたため被災を免れ、手元に戻ってきた。

2度の津波を乗り越えられたのは、祖父の教えがあってこそ。「言い伝えが大切だと思った。今度は体験したみんなが津波の語り部になってほしい」

一変した古里田老の街並み。「何とか復興してほしい」。自宅跡でこう願う田畑さんの足元には、スズランの花がたくましく咲いていた。

「みんなが津波の語り部になってほしい」。自宅のあった場所に立ち願う田畑ヨシさん＝宮古市田老

預かった少女にわいせつ

里親の男に有罪

福岡地裁判決

福岡県内の児童養護施設の10代少女を「週末里親」として自宅で預かり、わいせつな行為をしたとして、児童福祉法違反の罪に問われた同県の会社員田平昭一被告(38)に、福岡地裁は3日、懲役2年6月、執行猶予4年(求刑懲役2年6月)の判決を言い渡した。

深野英一裁判官は判決理由で「子どもを預かるボランティアに乗じて性的接触を繰り返した。少女の人格を顧みない悪質な犯行で、健全な育成に与えた悪影響は軽視できない」と指摘した。

判決によると、田平被告は2月7日、自宅で預かっていた少女にみだらな行為をした。

同被告は虐待などで親と暮らせない子どもを一時的に預かり、家庭の温かさを体験させる「週末里親」をしていたが、遅くとも昨年12月ごろから被害少女に性的な接触を繰り返していた。

「ひょうたん島」曲復活へ

被災で音源喪失の大槌町

ピアニストが提供約束

大槌町で、震災前まで防災無線で流されていた作家、故井上ひさしさんの「ひょっこりひょうたん島」のテーマ曲を復活させる計画が進んでいる。町役場が被災して失われた音源は、井上さんと親交のあったジャズピアニストが提供を約束。無線の設備も今月中の復旧を目指しており、町は「あのテーマ曲を聞き、町民が一丸となってくれれば」と期待している。

大槌湾に浮かぶ蓬莱島は「ひょっこりひょうたん島」のモデルとされる町のシンボル。島に灯台が設置されてから50周年を迎えた2003年以降、町は毎日正午に防災無線でテーマ曲を流してきた。しかし、津波で町役場が大きな被害を受け、無線が壊れ、保管していた音源も失った。

震災後の5月11日、東京で井上さんを追悼するコンサートが開かれた。主催したジャズピアニストの小曽根真さんは、井上さんの妻ユリさんから大槌町の惨状を聞き「井上さんが愛した町の役に立ちたい」と考えた。

小曽根さんは5月29日に大槌町を訪問。約300人が避難生活を送る体育館で、リクエストに応じながら8曲を披露し、被災者を元気づけた。

終了後、小曽根さんは「ピアノになるか、バンドになるか。まだ決まっていないけど、失われたテーマ曲の音源を作ります」と約束。また「テーマ曲をジャズ風にアレンジし、譜面を中高生のブラスバンドのため、町に贈りたい」とも語った。

町生涯学習課の佐々木健課長は「町の宝になる。町民がテーマ曲をもう一度聞き、復興に向け一丸となって頑張ろうという思いを分かち合ってほしい」と話した。

大槌町の避難所でピアノを演奏する小曽根真さん＝5月29日

■母殺害容疑で長男逮捕

仙台南署は2日、自宅で同居する母親を殺害したとして、殺人の疑いで長男の会社員大塚武智容疑者(41)＝仙台市太白区青山2の36の8＝を逮捕した。

逮捕容疑は5月31日午後11時半ごろから6月1日午後3時半ごろまでに、NPO法人理事長の美智子さん(68)の胸を出刃包丁で刺し、殺害した疑い。

仙台南署によると、「間違いありません」と容疑を認めており、動機や経緯を調べている。

■脱税で美容研究家に有罪

約1億7900万円を脱税したとして、法人税法違反罪に問われた化粧品会社「トリプルサン」(東京)社長岡江美希被告(39)＝本名多田美希、写真＝に、東京地裁は3日、懲役1年6月、執行猶予3年(求刑懲役1年6月)の判決を言い渡した。法人としての同社は罰金4300万円(求刑罰金5300万円)とした。

被告はニューハーフ美容研究家としてテレビ出演するなどしていた。

■元プロ野球選手を逮捕

警視庁愛宕署は3日、路上で女性(62)を突き飛ばしたとして暴行の疑いで、プロ野球大洋(現横浜)の元投手島田源太郎容疑者(71)＝東京都台東区＝を現行犯逮捕した。

同署によると、島田容疑者と一緒に歩いていた男性が、知人の女性と路上で再会。金をめぐり言い争いになり、同容疑者が仲裁していた。「言い争っているうちに、やってしまった」と供述している。

島田容疑者は1958年に大洋に入団。60年8月に完全試合を達成し、初優勝したチームの原動力となった。70勝77敗の成績を残して現役引退。その後は野球解説などをしていた。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。